

令和6年度 一般選抜前期日程 経済経営学部 英語
出題の意図と解答の傾向

英語力を総合的に測るために指示、設問も全て英語による出題とした。

Reading Section

【出題の意図】

現代社会において身近に触れると予想される内容や世界的に実際に起こっている動きなどに関する英文を正確に内容把握・処理できる力を測ることを目的とした。具体的には、オンラインチャット、広告文、新聞記事、手紙などを出題した。高校卒業程度の英語力を基盤とし、設問に対する情報を文書内から迅速に見つけ、さらには国内外の幅広い分野のトピックに関する英文の読解力を試す出題とした。

題材の総数は6種類、総設問数は30問とした。最初の問題は、親子間8往復のチャットとした。すべてをテキスト化しないチャットから趣旨や状況を読み取る力を必要とする設問を出題した。二題目は、社会的読み物としてニューヨークに存在する博物館にまつわる話を取り上げた。興味をそそる内容を扱っており、記事のテーマを意識しながら読んでいくかどうかを問う問題を出した。総語数は約400語、設問は5問設けた。三題目は、地域として現実味のある架空のイベントの広告とし、食にまつわる配慮なども含んだチラシを出題した。実際にイベントに参加する場合に必要な事項を正確に読み取る力を測る問題を出した。五題目は、大学生が企業の短期スタッフ募集に応募するという設定で書かれた手紙を出題した。総語数は約250語、設問は5問設けた。英文手紙の書き方の基本的なルールに沿い、送り主の大学生のバックグラウンドや将来の目標などを読み取ることを求めた。四題目と六題目は、最近の新聞からそれぞれ日本の高齢化と中国女性の不動産所有を取り上げた記事を出題した。四題目の総語数は約420語、設問は4問、六題目は今年度の出題中最も語数が多く、総語数は約720語、設問は6問であった。これらの記事の出題には、4月から大学生となる受験者に、現代の社会的な情勢などに普段から興味を持ってほしいという狙いもある。健康的に歳をとるために必要なことと中国における女性の自立に関する記事内容を正確に読み取ることを求めた。

【解答の傾向】

Reading sectionの正答率平均は55%であった。大問によって多少のばらつきがみられたが、設問によるばらつきの方が多くみられた。大問に関して、最も正答率が高かったのは一題目の親子のチャットで、次に四題目の高齢化に関する新聞記事が続き、いずれも6割以上の正答率であった。最も正答率が低かったのは六題目の新聞記事で、約4割の正答率であった。

設問のうち、最も正答率が高かったのは、一題目のチャットの設問1で、チャットをしているMikeが今どこにいるかを問う問題であった。次に正答が多かったのは、同じく一題目の設問5で、一連の会話の内容に関する問題であった。これら2問については、チャット文の情報から正確に答えを導き出したことが窺われ、普段馴染みのあるチャットの画面スタイルで比較的読解しやすかった可能性が示された。しかしその一方で、同じ題材の設問3の正答率は2割を切っていた。これは正解を選択するには深い語彙力が必要となる問題であったことの影響と思われる。このような問題には、単語の主要な意味にとどまらず、広い知識を持つことが対策となる。

二題目の博物館についての読みもの、四題目の高齢化に関する記事、五題目のビジネスレターの設問

は、概ね5、6割の正答率だった。

最も正答率が低かったのは三題目の設問11で、イベントのリーフレットの情報から参加料金を算出する問題であった。イベント申し込みのチラシやウェブサイトでは割引適用の記載がある場合があり、本問題もリーフレット全体に目を通して正答を選ぶ実践的な問題だった。この問題に約1割しか正解者がいなかったことは残念である。次に正解が少なかったのは、六題目の新聞記事の設問30で、正答率は2割を切っていた。六題目については、題材の内容や英文レベルから日本語の注を付けて出題したが、読解に苦労した様子が窺えた。その中でも設問30は、深い内容理解が必要とされる問題であったため、正解が少なかったと思われる。また、最近の社会情勢などの知識の影響もあったであろう。このような知識を身に付けるには、常に広い視野を持ち、さまざまな情報にアンテナを張っておく必要がある。そうすることにより、英語の語彙力の広さや深さも習得できる。そういった対策を期待する。

Writing Section

【出題の意図】

政府が2022年を「スタートアップ創出元年」と位置付けたことに関連させたトピックについて、英文で自分の考えを論理的に述べる力を測ることを目的とした。自分が起業すると想定し、会社が成功するために必要と思われる要素について、自分の考えを論理性の高い理由や事例を挙げて支持しながら、100語程度の英文で述べることを求めた。英文パラグラフを書く際の基本的なルール、適切なフレーズの使い方を理解しているかどうかを見ることも意図して出題した。

【解答の傾向】

比較的難しい単語や定型表現を使用し、「主題文」「支持文」「結論文」という英文パラグラフの構成で自分の考えを述べることができているものもある一方で、「主題文」が欠落しているものや「要素を3つ」述べるよう指示した出題に対し2つしか述べていないものなども一定数見られた。つなぎ語はうまく使用できているものがほとんどで、その点においては読みやすいパラグラフが多かった。

支持文の「3つの要素」は、こちらでは「正解」を設けず、受験生が自由な発想で述べ、それに対して論理的に説明できているかを評価した。要素として挙がっていたものは多様で、受験生のいろいろな視点が垣間見える答案となっていた。たとえば、「資金」「業種」「斬新なアイデア」「優秀なスタッフ」のような会社側の視点のものから、「職場環境」「休暇」「コミュニケーション」といった労働者側の視点からのものもあった。その他、「環境への配慮」「知識」「インターネット」「笑顔」「楽しさ」なども挙げられていた。課題としては、これらの「要素」を含め、その理由を説明するために必要な語彙が不足しており、十分な説明となっていない傾向がみられたことが挙げられる。日常的に幅広いジャンルの情報に触れ、英字新聞や英語のウェブサイトなどで使用できる英語表現を増やしていくことが対策となる。また、結論文は、安易に主題文と同じ内容を述べるのではなく、支持文で自分が述べたことを踏まえた結論文が書けるように準備してほしい。

今年度は、自分の考えをまとめるためにある程度の時間を必要とする出題としたため、結論文まで十分書けていないものも若干見られた。答えが決まっていない問いに対し自分の考えを自由に、且つ論理的に述べる力をつけてほしい。また、大文字・小文字の使用、基礎レベルの単語の綴りなどは精度を高め、高校卒業程度のライティング力を持って臨むよう努めてほしい。一部、問題の英文を読み間違えた答案もあったため、出題文を正確に理解できる英語力も必要である。